

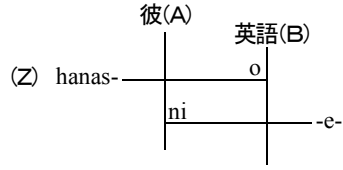
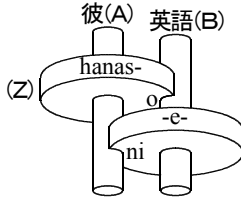
S3.1 「態」とは

12.1

「態」とは、ある主体Aと属性Zが結びつくことに対して、実体Bが許容者・原因者・受影者として関わりを持つことをいいます。「許容態・原因態・受影態」の3つがあります。複合による「基」(原因基・受影基など)もあります。

許容態

-e-

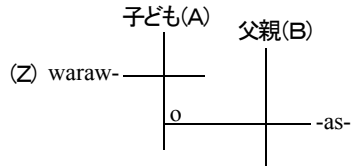
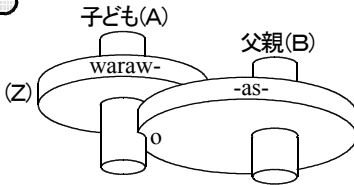


図S3-1 英語(B)が 彼(A)に 話せる (hanas-e-ru) 図S3-2

主体Aと属性Zが結びつくことの許容者(許容する者)がBです。
態属性は -e- です。動詞が tabe- のような母音末のときは直接付きません。

原因態

-(s)as-

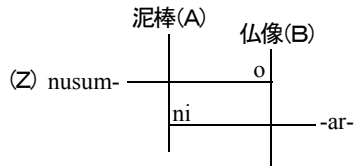
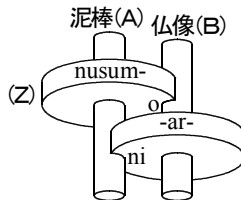


図S3-3 父親(B)が 子ども(A)を 笑わす (waraw-as-u) 図S3-4

主体Aと属性Zが結びつくことの原因者(原因となる者)がBです。
態属性は -(s)as- です。(s)は動詞が tabe- のような母音末のとき出現します。

受影態

-(r)ar-



図S3-5 仏像(B)が 泥棒(A)に 盗まる (nusum-ar-u) 図S3-6

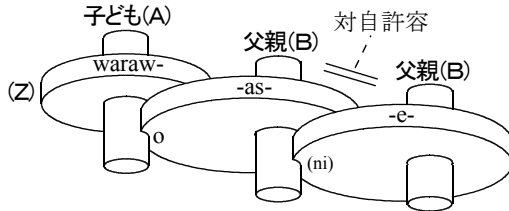
主体Aと属性Zが結びつくことを受影者(影響を受ける者)がBです。
態属性は -(r)ar- です。(r)は動詞が tabe- のような母音末のとき出現します。

態の基

「基」とは複数の詞が複合して1要素として機能するもの(S1.7)で、以下のほかに「二重原因基」「原因受影基」等があります。 12.5

原因基

-(s)as- と
-e- の複合



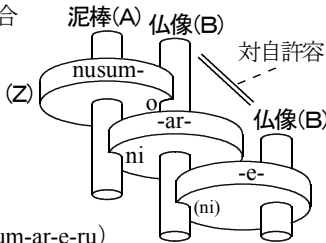
図S3-7 父親(B)が 子ども(A)を 笑わせる (waraw-as-e-ru)

主体Aと属性Zが結びつくことの原因者となることをB自身が許容します。

受影基

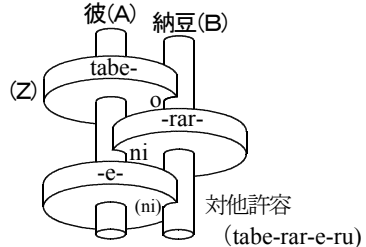
-(r)ar- と
-e- の複合

[受影基1(受身)]



(nusum-ar-e-ru)

[受影基2(可能)]



(tabe-rar-e-ru)

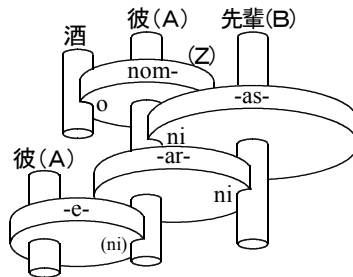
図S3-8 仏像(B)が泥棒(A)に盗まれる 図S3-9 彼(A)が納豆(B)を食べられる

Bが主体Aと属性Zが結びつくことを受影者となることを

受影基1ではB自身が、受影基2ではAが、許容します。

原因受影基

-(s)as- と
-(r)ar- と
-e- の複合



図S3-10 彼(A)が 先輩(B)に 酒を 飲まされる (nom-as-ar-e-ru)

「使役受動基」ともいえます。主体AがBによる使役の受影者となります。